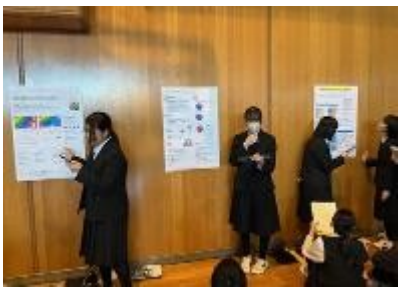
北海道帯広三条高等学校　学校通信　第60号

樹蔭静けし

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL：0155（37）5501

発行日　令和６年１２月24日

２年次ポスターセッションで探究成果のまとめ



２年次の「進路類型別探究発表会」は体育館でポスターセッションの形で発表しました。その数は実に61。それぞれのテーマで作成したポスターをもとに工夫を凝らした発表を展開しました。また、これまでの探究でご協力いただいた方々や、保護者から20名を超える方々がいらっしゃって、生徒たちの発表に真剣に向き合っていただきました。その都度、鋭い質問や温かい励ましの声をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

ここでいくつかご紹介します。

【ART・表現】類型「アメリカと日本のPOPアーティストの発声法の違い」では、実際に発声してその違いを示していました。

【看護・医療＆地域支援】類型「注射がなくなる時代は来るのか」では、注射のリスクを明確に示したものの、それによる効果や代替となるものとの比較において、最終的に注射がなくなることはないだろうと結論づけていました。

【SCIENCE＆TECHNOLOGY】類型「クレーンゲームから考える～機械のフォルムと性能の話～」で生徒が提案するのは、個々のレベルにあった難易度設定という機能でした。いまだかつて一度も景品をとったことのない私にとっては非常に魅力的なものでした。

３年次は原則、個別の探究となります。より高度かつ専門的な探究を期待します。お疲れ様でした！

発表を聞いた外部の方からの感想

・夢を叶えていく作業を一緒にさせてもらえている気持ちになりました！地域に喜ばれることを形にしていきましょう！
（地域課題解決）

・どんな環境で生きてきても、みんな同じ人間なんだよね。関わらせてもらえて、こちらの方が大きな気付きをいただきました。
（国際理解・人権）

・少しでもお役に立てれば、と思い参加させていただきましたが、生徒さんたちみんなが誰かに頼る、頼られる、誰かを気に掛ける、手をつなぎ合える、そんな社会を作っていってもらえるんじゃないかな、と希望に繋がりました。
（看護・医療＆地域支援）

・地域課題について真剣に取り組んでいることに感銘を受けました。振興局には皆さんに提供できるデータや人材ネットワークがありますので、ぜひ、気軽に声を掛けていただければと思います。
（十勝振興局）

・単なる調べ学習にとどめず、もっと強く主張するとより大きな学びにつながると思います。探究を楽しんでもらいたいです。
（教育関係者）

2年・奥秋さん世界一　ジュニアW杯スピードスケート500m

11/30 (土)-12/1 (日)にポーランド・トマショフマゾウィエツキで開催された「ジュニアワールドカップ　第1戦 」に日本代表として出場した奥秋静子さん（２年２組)が、500m 39秒48で優勝しました 。男子1500メートルは日下賢将さん（３年５組）が５位入賞を果たしました。

優勝した奥秋さんは「初めての海外遠征でしたが、緊張することなく、むしろ楽しく滑ることができました。その結果、優勝することもできてとても嬉しかったです。1000mの記録をもっと伸ばすことが今後の課題ですが、イタリアで開催される世界ジュニアの切符を獲得できるようこれからも頑張ります。」と話してくれました。

１月21日からは、岩手県盛岡市でインターハイが開催されます。スケート部女子は団体総合３連覇がかかる大会です。健闘を祈ります！

節電結果

今回は昨年を下回る結果となりました。ICT関係機器の使用頻度もあがり、一概に昨年と比較はできませんが、引き続き節電を心掛けてください。まずは空き教室の電気は消しましょう！

一昨年度	17,717 kWh
昨年度	14,574 kWh
今年度	14,487 kWh

三条プリズム

令和6年もいよいよ終わろうとしています。今回は異動してすぐ現３年次生の担任を務め、以降３年間ずっと担任として年次を支えてきた山上祥吾教諭を紹介します。

第42回　3-5担任・サッカー部顧問　山 上 祥 吾 教諭

受験生のみなさん、決して一人ではありません！

◇テントウムシから始まった3年間

三条高校へ来て３年が経ちました。怒濤の3年間でした。全校生徒数が60名弱の学校から１学年で240名の学校への異動。求められるものが何から何まで違う学校で担任となり戸惑いの毎日でした。生徒だけでなく同僚の先生の顔と名前も一致しない中、宿泊研修が始まりました。自分には何が求められて、何をしなければならないのか、全くわからない状態でした。そんな中、生徒からこう声を掛けられます。「先生、テントウムシがすごいことになっています」。生徒からの訴えに、何も考えることなく体が動いていました。ガムテープを片手にテントウムシ退治に奔走することで自分の居場所を確保しようとしていたのかもしれません。今振り返ってみてもあの時、誰から声を掛けられて、どんなことを話していたのか、全く覚えていません（笑）。３年が経過してようやく自分のすべきことがわかり始めたような気がします。でも、基本的に今も変わりなく何かをし続けています。そんな性分なのかもしれません。

◇何かを求めて動き続けていた高校・大学時代

私はオホーツクの湧別町に生まれ育ちました。地元の高校のすぐ近くに自宅があり、何の疑いもなくその高校に進学しました。家から２分ですから学校に通うとか帰るとかいう感覚はほとんどありません。朝から夜遅くまで学校にいました。サッカー部を終えるとそのまま生徒会の仕事をして、勉強も国公立目指して頑張りました。

教育大函館校に進学しても興味をもったことは何でもやってみました。まずセパタクロー部に入りました。競技人口が少ないため北大との合同チームでしたし、大会のために全国色んな場所に行きました。チームから日本代表候補選手が出て、代表チームと試合をすることもしばしばでした。部活だけでなく、大学の生協委員という仕事をして、そのおかげで全国の大学生との交流ができました。函館という地域の特色かと思うのですが、美観地区を守るボランティア活動にも参加、その他にも函館映画祭に関わって活動していました。新聞社とコラボして、学生新聞を立ち上げたこともあります。今の探究活動そのものです。多くの人との交流から多様な価値観に触れ吸収することができました。それが確実に今の自分をつくっています。

◇最後まで一緒に頑張ろう！

前任校の阿寒高校で合浦校長先生と１年間一緒でした。その時、進学したいという生徒の夢を実現させるため、勉強部を立ち上げました。その後阿寒高校在職時に、教育大釧路校で教職大学院に通わせてもらいました。週３～４回、勤務が終了してから釧路まで通い、夜10時頃まで授業を受けるという日々でした。体力的にかなりきつかったのですが、２回目の大学生活は楽しかったです。テーマは「地方小規模校における進学指導の充実の方法」。もちろん、そのまま三条高校に生かせるものではないのですが、一人一人の進路希望にふさわしい進路指導を提供することは変わりません。最後まで生徒たちに寄り添い指導に全力を注ぎたいと思っています。最後まで一緒に頑張りましょう！

インタビュー きらり

三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。

十勝支部バドミントン新人戦でシングルス・ダブルス・団体の3冠

2年3組　内 田 千 智 さん

バドミントンでシングルス・ダブルス・団体の３冠に輝いた２年３組の内田千智さん。団体はなんと17年ぶりの優勝だとか。まずは３冠を獲得した時の気持ちを伺いました。

「本当に嬉しかったです。特に団体での優勝は17年ぶりということもありますけれど、みんなで勝ち取った優勝だったので」と満面の笑顔。団体での優勝は予想外だったのか聞いてみると、「私は団体もいけると思っていました。毎日みんなで充実した練習をしてきましたし、力もついてきたと思っていました」ときっぱり。それよりも自分自身が大会直前まで調子があがらず、結構焦っていたそうです。「１週間前に中学生と練習をしたんですが全く動けてなくて、これはまずいなと思いました。そこから一度基本に立ち返って、姿勢を低くして動く練習を重点的にやって大会に臨みました」。結果は個人では全てストレート勝ちという素晴らしいものでした。「でも決勝は結構競った試合で、インターバルの１分で『絶対勝つんだ』と集中力を高めて押し切れました。あれが勝負の分かれ目だったんじゃないかと思います」と振り返ってくれました。

中学校時代はずっとダブルスで、高校からシングルスにも取り組むようになったそうですが、内田さんはダブルスが好きだと言います。「本当はそれではダメなのですが、一人だとやっぱり心細くなってしまうんです。その点ダブルスはお互い励ましあって補えるところが好きです」と言い、ダブルスのパートナーである１年の三浦さんと声を掛け合って気持ちを盛り上げることができているとにっこり。

バドミントンの魅力を尋ねると、「長いラリーが続いた後、自分が得点をとれた時の達成感は何にも変えられません」と即答。そこでバドはきついスポーツだという印象があることを伝えると、「もちろん何をするにもきつい部分はあると思いますが、そればかりではないですから。やっぱり羽根をきれいに打ち込めたときは気持ちいいです。それにうちの部の練習はみんなで『ガンバレ』って言い合えるような雰囲気でとても楽しいです」とバドミントン部の仲の良さを話してくれました。さらに「私たちは男子と一緒に練習しているのですが、部長の佐藤さんが私たちの思いを汲んで全体に言うべきことを言ってくれるので本当に有り難いです」と感謝の言葉を口にしていました。

全道大会は１月15日から。「悔いが残らないようしっかり準備して大会に臨みたいです。目標はベスト４です」と力強く言ってくれました。全道大会での活躍を祈っています！